

会報



◇史学会総会

第六回奈良大学史学会総会は、新しいキャンパスの下、五月二十八日(土)三〇二教室で開かれ、一九八七年度の事業、会計、会計監査の各報告が行なわれた。ついで一九八八年度の役員人事案、事業計画案(「奈良史学」の発行、会報発行、現地見学会、青垣祭、卒論中間報告(会、講演会等)と、それに伴う予算案が提案され、それぞれ原案どおり承認された。

一九八八年度役員は次のとおり。

▽会長 鎌田道隆 副会長 菅野 正

▽教員委員(監事) 水野柳太郎 堀内一徳

(編集) 明石 岩雄

(庶務・会計) 青木芳夫

(庶務・雑誌交換) 森田憲司

▽学生委員

近藤順(代表) 鈴木知子 石橋亮浩 田村充 古谷

剛洋 中堀夏樹 岡本和美 蒲池清士 橋本裕史 元安今

日子 長尾芳子 原幸治 牧野知幸 山明純(以上総務)
小磯郁子 安藤さより 金子和恵 國富美貴子 伊達深幸
森田恭栄 山本聡子(以上広報) 長谷川清 山田由加子
斎藤淳子 沢邊理恵 柴崎恭江 田川恵子 田畑麻貴子
田畑由貴子 疋田容子 日高真由美 宮本万紀子(以上編集)
今井睦美 本村和代(以上会計兼書記)

◇春季講演会

五月二十八日(土)、史学会総会に引き続き例年の通り、奈良大学史学科・史学会共催による特別講義(春季講演会)が、左記のように行われた。

神戸大学教授 戸田芳実氏

「わたしの古道遍歴」

関西大学教授 富澤靈岸氏

「イギリス中世の政治家の処世」

◇現地見学会

今回は過去の希望から検討し、大和の古道「山の辺の道」見学会を五月二十一日(土)に実施した。近鉄西大寺駅南口に十三時四十分集合、他学科から積極的な参加もあり、約十五名の参加者で天理に向った。天理からJR線で三輪へ、三輪より約三時間半の古道散策が始まった。大神神社

から展望台にのぼり、二上山、天の香具山等を眺め一休み。初めて訪れた人や二度目の人、様々であったが、小さな発見に皆耳を傾けていた。その後、松原神社、景行陵、崇神陵を見学。途中、コース外の元前方後円墳だったと思われる古墳の横穴式石室に入ったりし、参加者の興味もひとしおだった。コース予定の箸墓古墳は時間の都合により除かれ、柳本から天理へ帰路についた。少しゆとりを持った予定だった為、解散時間には辺りは真っ暗だったが、参加者全員にとって、有意義な見学会であった。

◇青垣祭参加報告

新しいキャンパスへ移転し、気分も新たに青垣祭へ参加、史学会としての参加は、今年でまた2回目であるが、『奈良—奈良町について—』というテーマを取り上げ、奈良町の街並のビデオと元興寺の御任職へのインタビューストリーを製作・上映した。まだ不慣れな点が多く苦労は多かったが、少しばかりの充実感も憶える事が出来た。今回は足掛り的な研究発表になったが、これからも「奈良」という大きな主題の下で頑張りたいと思っている。

◇卒論中間報告会

十一月十九日、二十六日の午後一時から、卒論中間報告

会が三〇二教室に於て行われた。今年度でこの会も五回目を迎え、ますます多くの熱心な学生が集まり、熱のこもった報告討論が行われた。

報告者と論議は次の通りである。

○十一月十九日

渡辺雅子「両漢交替期の民衆反乱について」

尾上葉子「清代北京における菓子屋のギルドについて」

竹内けい「近世初期における大和支配の展開」

大島一成「日蓮を支えた極越」

西村弥生「一五〜一六世紀の民衆の精神文化について」

○十一月二十六日

大浦靖子「共和政ローマの貴族層について」

白井英吉「ナチス政権下における社会・経済と『生存圏』」

園

若田美佐子「古代皇親考」

藤田祥保「木津町と鉄道」

◇「史学会会報」等の発行

史学会行事の案内など、史学会の活動の普及を目的とする「史学会会報」であるが、本年度は冬期休業前の一回のみの発行となった。

また、小冊子「歴史学への扉」であるが、本年は史学会の紹介を兼ね、四月のオリエンテーション時に新入生に配布し、一・二年次生を対象とする参考図書案内を春期休業前に配布した。教員・学生委員・卒業生の共同執筆により充実した内容となった。

◆第三回中国研修旅行

奈良大学文学部史学科では、昨年・一昨年度に続き、第三回中国研修旅行を、松山宏・菅野正・鎌田道隆・森田憲司の四教員の引率のもと、次の日程で行った。

三月 五日 上海を経て成都へ、成都泊

三月 六日 成都（動物園、青羊宮、成都市博物館）

三月 七日 成都（都江堰、杜甫草堂、文殊寺）

三月 八日 成都から北京へ（雍和宮、天壇、天安門、

琉璃廠）

三月 九日 北京（Aコース、万里の長城、十三陵。

Bコース、五塔寺、北海公園、王府井）

三月 十日 北京（故宮）から杭州へ

三月十一日 杭州（岳飛廟、西湖遊覧、文瀾閣、靈隱寺

黃龍洞）

三月十二日 杭州から柯橋鎮を経て紹興（魯迅故居、咸

亨酒屋

三月十三日 紹興（越王台、禹王陵）から上海へ

三月十四日 上海（豫園、上海博物館、南京路）

三月十五日 上海（龍華寺）から大阪へ

今回の中国研修旅行には、四五名の学生が参加した。成都・北京・杭州といった歴史的都市を訪問して、多くの史跡を見学するとともに、異なる風土を体験することができた。とくに、江南の小鎮、柯橋鎮での一時間余りの自由散策は多くの参加者に強い印象を与えたようである。なお、八九年春の第四回研修旅行も実施が決定している。

◆会員動向

○森田憲司氏（東洋前近代史担当）は、史料収集及び現地研究者との交流のため、昨年一月二三日から本年一月九日まで、台湾の台北・台南・澎湖島の各地を旅行し、成果をあげた。

昭和六十二年史学科卒業論文

〔日本史〕

門号氏族について

古代の姓について

石田有紀子

海老澤香織

—官僚制との関連—

神龜年間の政治状勢

—長屋王と藤原氏—

殯宮儀礼の本義

大化の東国国司について

防人について

長屋王論

国家仏教の受容について

藤原不比等について

—藤原氏の封戸をめぐる—

土師氏に関する一考察

—職掌の変化について—

内侍司についての一考察

藤原仲麻呂政権の崩壊

紫微中台について

藤原仲麻呂と紫微中台

按察使について

—主にその任国規準について—

律令制軍団に関する一考察

—軍統について—

国分寺の創建と歴史的要因について

尾張 文彦

大石 英幸

加賀谷紀子

川中 保

川端 エミ

北原 綾子

河内佐智子

佐藤 宏行

澤田 礼子

柴田 康志

田中 誠司

田中宇宙美

田中 由美

高次 智宏

中村 和生

地方豪族と律令国家

—郡司制を中心とした一考察—

タチハキノトネリと皇太子

—奈良時代の授刀舎人との関りを中心に—

古代の皇太子制について

—皇太子制の成立—

空海の入唐

—入唐迄の経過について—

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

御成敗式目の成立過程

戦国大名における商業支配について

—後北条氏を中心として—

辺境における中世社会の萌芽

—前九年・後三年の役を通して—

中世大和の被差別民について

—非人と声聞師を中心に—

法然教団について

—その受容と迫害を中心に—

中世武士団の族的結合について

—紀伊国隅田党について—

戦国期大和国東山内の動向

—山内中世城館を素材に—

中村 孝

長野砂智子

西屋敷栄子

牧 伸行

五十川達也

川上 均

河野 淑子

衣松 秀典

新地 雅彦

新宅 良二

多田 暢久

中世後期の被差別民

—河原者についての一考察—

高橋 由美

近世宿駅の構造と財政

—中山道追分宿を例として—

加藤 光一

室町時代の大和の座

—油座を中心に—

外山 千春

富くじの流行に見る近世庶民の経済観について

笠川 哲史

分国法にみる戦国大名の領国支配

—今川氏の場合を中心に—

松下 英樹

戦国期における大名領国制の形成

佐藤 寛

中世初期東国における武士の成立について

—但馬廻船群を中心に—

山口 耕一

近世中後期における日本海海運の一考察

佐藤 充弘

建武政権と足利尊氏

—播磨国矢野庄—

山谷 正一

江戸末期の世相についての一考察

坂口知世子

南北朝期における農民闘争

—覚如を中心に—

湯木順一郎

幕末維新时期における老農の役割

猿渡 真弓

京都における真宗教団の発展

—職人歌合に見る職人たち—

和田喜美子

近世美濃の村落における頭分制について

都竹 幸代

中世の職人たち

—職人歌合に見る職人たち—

西森 豊治

寛延讃岐一揆を通してみた近世農民生活

田中 昭吾

☆ ☆ ☆ ☆

近世奈良町における町共同体の構造について

足立 千寿

天明期における泉州千原騒動

寺内 克之

元禄期における幕政改革と畿内・近国譜代

—畿内・近国譜代小藩の設立と遠国奉行の改編を通して—

池辺 豊

幕末土佐藩の藩政と土佐勤王党

豊田 哲也

十八世紀における肥前蓮池藩の陶磁器業

中原 康

村方騒動から見た近世の村

—畿内・近国譜代小藩の設立と遠国奉行の改編を通して—

小栗 智子

近世初期における豊後の支配について

平川 信哉

水戸藩の天保「検地」問題における党争

—泉州白根郡新家村を例として—

大塚 雅昭

近世都市大坂と近郊の米流通

堀内 裕史

江戸時代における廓の歴史的意義

三木 賢蔵

牢人の思想・行動からみた幕藩体制確立期の
社会について

宮前 良隆

近世における子供の遊びと教育について

山田 信子

近世・大和の案内記からみた奈良観について

山田 浩之

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

広島・原爆投下候補地選定に関する一考察

井上 剛輝

一九三〇年代の婦人雑誌

大久保佐知代

— 婦人運動と対照して —

満州移民における民衆の動向

岡本 完

対日占領政策における米ソの確執

梶 説子

— ルーズベルトの死によってもたらされた影響 —

日本における官僚制形成と国民意識

駒井 君明

— 藩閥政治による一考察 —

アメリカ合衆国占領期における普通選挙法の
成立過程

重松洋一郎

大正デモクラシー期の貴族院改革

高野 博志

— 大阪朝日新聞に見る世論の動向 —

廃仏毀釈の中における仏教

長山 充志

— 真宗教団の維新政権における役割り —

一九二〇年〜四〇年代の交通統制

西尾 公秀

— 関西私鉄を中心に —

戦後労働運動についての一考察

西川 輝之

大正デモクラシー下の新教育

西谷 珠美

— 実例 児童の村小学校 —

長岡藩藩政改革と中立特行論

前野 哲哉

〔東洋史〕

マッテオ・リッチの活動について

大芝 林生

華僑民族運動とシンガポール検証事件

北村伊佐子

宋代の尼宗と宗教

後藤 賢二

— 喫菜事魔とマニ教の関係について —

中国僧の旅行記からみたガンダーラ地方の
変遷

高田 佳枝

北朝に於ける佛教

土井 実

北魏の道教と国教化

三浦 敦志

宋と西夏の関係

山口 富生

☆

☆

☆

☆

中国文化大革命に関する一考察

井原 康代

— 紅衛兵の教育・思想面 —

朝鮮の役について

片山 篤

朱元璋と白蓮教の乱との関係について

亀井 慎一

抗日戦争における国共合作の意義

小谷 正美

五四運動の思想的背景

廣畑 卓也

— 李大釗の思想 —

〔西洋史〕

新王朝期（一八王朝）に於ける信仰と文化

安達ゆかり

アーサー王物語について

浅巻 孝博

—アーサーの實在と伝説の拡大—

イギリス国教会の成立について

有馬 博子

古代ギリシア・スパルタにおける生活と女性

伊藤 美峰

古代ローマの農業と奴隷の関係について

池崎 浩二

フランス革命

宇治 敏幸

—モンターニュ派独裁の成立と崩壊—

古代ローマ帝国の拡大期と拡大停止期の状況

尾形 健一

古ゲルマン社会の生活

大井 淳司

—墓制と文献にみるゲルマンの信仰—

ケルト人とその社会の習俗と信仰に対する考察

垣東 充生

古代エジプト文字ヒエログリフ

河崎 素子

—その社会構造と信仰に及した影響について—

フランク王国メロヴィング朝の形成

川中真由美

新大陸植民地支配におけるスペイン

桑田 康恵

—新大陸植民地支配を中心とした歴史的發展の意義—

中世ハンガリー・アールバード王朝の内政と

小谷 正生

外交

中世大学の形成についての一考察

桜井 裕児

—Oxford 大学にみられるその成立過程—

アテネ民主政における奴隷制の発展

鈴木 健二

—奴隷制の果たした役割—

現代ソビエト社会における生活の中の女性

田中 未菜

砂漠の商人

滝口 和子

—アラム人の商業活動について—

古ゲルマン民族の社会

西山 眞弓

—経済的側面から見た貴族支配について—

馬の家畜化とその軍事的利用

原口 聡

古代オリエントの都市

松石 清美

共和政ローマの拡大と国家思想

松田 篤典

—ローマ市民権と同盟者—

ゲルマン民族の社会構造

吉住 武

☆ ☆ ☆ ☆

ナチスの親衛隊

梅林佐和子

マヤ・アステカの曆

木村 清文

アメリカの自動車生産の確立

田辺 公也

—フォード・GMを中心に—

アメリカの大恐慌

守田 勝豊

受贈雜誌及び図書（自一九八七年十二月
至一九八八年十月）

立命館史学（立命館史学会）第八号

就実女子大学史学論集 第二号

信大史学（信大史学会）第二二号

史艸（日本女子大学史学研究会）第二八号

アジアアフリカ言語文化研究（東京外国語大学アジアア

リカ言語文化研究所）第三四、五号

東洋文化学科年報（追手門学院大学文学部東洋文化学科）

第二号

仕事着―西日本編（神奈川大学日本常民文化研究所調査報

告第一二集）

専修史学（専修大学歴史学会）第一九、二〇号

千葉史学（千葉歴史学会）第一一、一二号

花園史学（花園大学史学会）第八号

史学（三田史学会）第五七卷第三、四号、第五八卷第一号

上智史学（上智大学史学会）第三二二号

弘前大学國史研究（弘前大学國史研究会）第八三、四号

富士論叢（富士短期大学術研究会）第三二卷第二号、第

三三卷第一号

中国水利史研究（中国水利史研究会）第一七号

西洋史論叢（早稲田大学西洋史研究会）第九号

日本文化史研究（帝塚山短期大学日本文化史研究会）第九号

横浜商大論集（横浜商科大学術研究会）第二二卷第一、

二号

中国中日関係史研究会会刊 一九八七年第三、四期

韓（韓国研究院）第一〇八、九、一〇号

民具マンスリー（神奈川大学日本常民文化研究所）第二〇

卷九―一二号、第二一卷第一―六号

史叢（日本大学史学会）第四〇、一号

橘女子大学研究紀要 第一四号

アカデミア 人文社会学編（南山大学）第四七号第一、二

分冊

愛知大学文学論叢 八六、七、八輯

紀尾井史学（上智大学大学院史学専攻生会）第七号

琉大史学（琉球大学史学会）第一五号

橘史学（橘女子大学歴史学会）第二号

アジア研究所紀要（亜細亜大学アジア研究所）第一四号

鹿大史学（鹿児島大学法文学部）第三五号

東海史学（東海大学史学会）第二二二号

史苑（立教大学史学会）第四七卷二号、第四八卷一号
熊本史学（熊本史学会）第六四・五号
日本仏教史学（日本仏教史学）会第二二号
鷹陵史学（仏教大学歴史研究所）第一三三号
帝京史学（帝京大学文学部史学科）第三号
東洋史苑（龍谷大学東洋史学研究会）第三〇・一号
住友史料館報 第一八号
人文学報（東京都立大学人文学部）第一九九号
東北学院大学論集 歴史学・地理学 第一九号
学習院大学史料館紀要 第四号
岩手史学研究（岩手史学会）第七一号
西洋史学報（広島大学西洋史学研究会）第一四号
秋大史学（秋田大学史学会）第三四号
四天王寺国際仏教大學紀要 昭和六二年度
二松学舎大学人文論叢（二松学舎大学人文学会）第三八、
九輯
關西學院史学（關西學院大學史學會）第二二二号
史泉（関西大学史学・地理学会）第六七、八号
史観（早稲田大学史学会）第一一八、九册
中央史学（中央史学会）第一一号

岡崎市史研究（岡崎市史編さん委員会）第一〇号
鳴門教育大学研究紀要 第三卷 教育科学編、人文・社会
科学編、芸術編、生活・健康編
漢学研究通訊（漢学研究中心）第七卷第一、二期
法政史学（法政大学史学会）第四〇号
日本思想史研究（東北大学文学部日本思想史学研究室）第
二〇号
歴史（東北史学会）第七〇輯
東洋大学文学部紀要第四一集 史学科篇Ⅺ
白山史学（東洋大学白山史学会）第二四号
三井文庫―沿革と利用の手引き（三井文庫）
三井文庫論叢 第二一号
アジアにおける社会変動とその諸環境に関する史的研究
（代表者寺地遵）
宇大史学（宇都宮大学史学会）第六号
明代史研究（明代史研究会）第一六号
津軽十三湖の人文・自然科学的総合研究（弘前大学津軽十
三湖の人文・自然科学的総合研究事務局）
東京大学史料編纂所所蔵の影写本収載古文書検索システム
の開発（東京大学史料編纂所）

宇佐家伝承古伝が語る古代史 宇佐公康著

モンゴル研究（日本モンゴル学会）第一八号

双文（群馬県立文書館）第五号

群馬県行政文書件名目録第二集 明治期地方編Ⅱ（群馬県

立文書館）

史友（青山学院大学史学会）第一九、二〇号

神戸大学史学年報（神戸大学史学研究会）第三号

吉備地方文化研究（就実女子大学吉備地方文化研究所）第

一号

新市町立歴史民俗資料館年報 創刊号

精華町の史跡と民俗（精華町）

年報中世史研究（中世史研究会）第一三号

資料館紀要（京都府立総合資料館）第一六号

免ヶ原古墳発掘報告書（宇佐風土記の丘歴史民俗資料館紀

要三）

荘園村落遺跡の調査と保存一、二（宇佐風土記の丘歴史民

俗資料館紀要四、五）

豊後国都甲荘一（宇佐風土記の丘歴史民俗資料館）

米沢史学（米沢史学会）第四号

二松（二松学舎大学大学院文学研究科）第二号

二松学舎大学東洋学研究所集刊 第一八集

二松学舎大学論集 第三一—号

龍谷史壇（龍谷大学史学会）第九〇、九一号

聖心女子大学論叢 第七一集

北大史学（北大史学会）第二八号

海南史学（海南史学会）第二六号

学習院大学東洋文化研究所調査報告 第二〇、二一号

地域研究いたみ（伊丹市立博物館）第一七号

歴史人類（筑波大学歴史・人類学系）第一六号

兵庫県の歴史（兵庫県史編集室）第二四号

キリスト教史学（キリスト教史学会）第四一集

宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 一九八七

宇佐宮弥勒寺（宇佐宮弥勒寺旧境内発掘調査概報Ⅴ）（宇佐

風土記の丘歴史民俗資料館）

山形史学研究（山形史学研究会）第二三—号

高円史学（高円史学会）第四号

御影史学論集（御影史学研究会）第一三—号

神奈川大学日本常民文化研究所調査報告第一三集 民具実

測図の方法Ⅰ—農具Ⅰ

東北学院大学東北文化研究所紀要 第二〇号